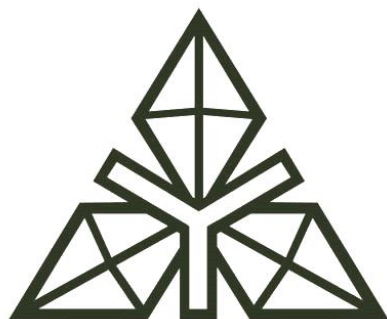


令和5年度  
**授業研究**  
第30号



秋田県立秋田高等学校

# 目 次

《巻頭言》……………校長

—本年度の研修テーマ—

生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践  
～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

## 【令和5年度授業研修年間計画】

令和5年度秋田高校授業研修年間計画 概要……………企画研修部……………1

## 【令和5年度授業改善重点課題】

令和5年度秋田高校授業研究テーマについて……………企画研修部……………2

## 【校内授業研究（前期）】

前期校内授業研究会実施要項……………企画研修部……………3

## 【校内授業研究（後期）】

授業改善強化期間要項……………企画研修部……………18

実施要項……………企画研修部……………19

国語科……………千田玲央奈……………26

地理歴史科……………菊地 達八……………28

情報科……………野呂耕一郎……………30

協議会報告書……………32

研究会振り返り結果……………企画研修部……………39

## 【個人研究】

『宋史』列伝における60代の生き方……………国語科 坂本 公正……………40

# マイルストーン

校長 柘植 敏朗

最近、様々な経験を経て秋田に戻り活躍している卒業生達と話をする機会が増えた。何も無いと思っていた秋田に可能性があることを見つけ、それが楽しみになってきたと話している彼らを見ていると大変頼もしい限りだ。彼らの高校時代の話題は当然私の授業にも及ぶのだが、驚くほど詳しく覚えていることに内心ははらはらしながら話を聞くことになる。時に耳の痛い話もあるのだが、「あの時、こんな図を書きましたよね。一番最初の授業だったので、とても印象に残っているんです。」といわれたことがあった。確かに黒板一杯に大きくて変テコな図を書き、それを元ネタに1時間授業を行うのが秋田高校勤務以降おきまりのスタイルになっていたのだが、その一番最初を彼は覚えていてくれた。今考えると指摘しどころ満載の授業内容であり、少しずつブラッシュアップしてきたつもりではあるが、20年の時を超えて、そうした話を聞けたことはうれしさと同時に冷や汗もの話題提供となった。彼らは自分の未熟な授業についてきてくれた。そして一番伝えたかったことが、すでに40歳を過ぎた人の記憶に残っていることに感動し、そして教えることの責任を改めて感じた瞬間ともなった。

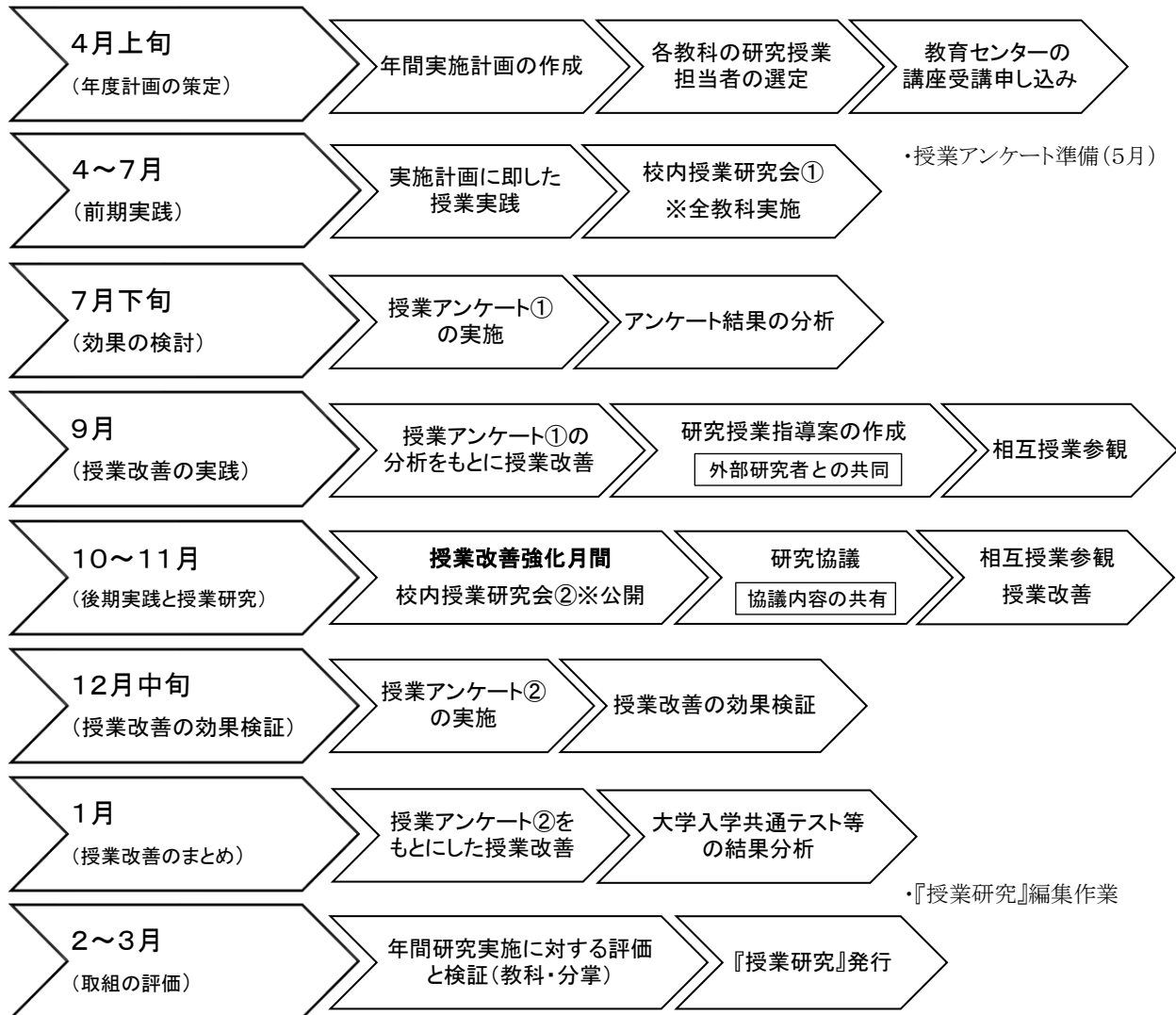
日々授業改善といわれているが、そこにゴールはなく、常に変化しながらその時々状況に対応しつつ質を高めていくことが求められている。教えることの最終到達目標は何か、ということで一つ紹介したいことがある。

あるテレビ番組を見て、関東地方の私立高校の新たな取組を知ったのは今から15年ほど前のことである。その取組は学校の姿を180度変えたと言われる。28歳の自分をイメージすること、その夢の実現（ゴール）に向かって努力しようということがコンセプトになっている。28歳の目標が定まると、そこから逆算して高校卒業から10年間で何をすれば良いのか、高校卒業までに何をすれば良いのかを考えるという仕掛けだ。全員がすぐに目標を見つけるわけではなく、悩みながら迷いながらたどり着く生徒も多いそうだ。この高校の校長は、生徒が目標を見つけたときに「やる気のスイッチが入った」状態になると表現していた。スイッチが入ると、生徒は指示など無くとも自らが考え、実際の行動に移すという。極端に言えば生徒は教師の指導など必要ではなく、自分から様々なことに積極的に努力し自己の能力を高めていくという。

番組中で登場したキーワードは「ゴールがあるから逆算できる」、「辛いのは将来につながる」だった。生徒が説明会を開いて株主を集め、資金を調達して文化祭で模擬店を開店したり、学校指定バッグの改良で一般企業の担当者と対等に交渉する姿も放映され、何にでも本気でぶつかる姿が印象的だった。生徒に「スイッチの入った」状態を体験させることができれば教師の仕事はほぼ完了なのかもしれない。28歳をゴールとする取組は10年後の自分に目標を設定したからであって、人の実際の最終的なゴールは人生の最終盤だと思う。そこに向う取組は個人のそれぞれの価値観によってなされ、人生を彩っていくことになる。

今年度開催された秋田高校創立150周年記念式典のシンポジウムのテーマは「2050年の私たち ～世界・日本・秋田～」だった。高校生が27年後に自分がどうなっているのかをイメージしながら様々な年代のゲストの話の聞くという設定だが、どんな生き方をするのかを考える機会あるいはきっかけにしてほしいという狙いがあり、この高校の取組と似た目的がシンポジウムには込められていた。人生の中にいくつかのマイルストーンをつくり、そのスパン毎の目標を達成するべく頑張っていくことは、最終的な目標達成の成否は別として人生を豊かにすることにつながると考えたからだ。表現は違えど野球の大谷選手の曼茶羅チャートも同じで、最終目標到達のために必要となる項目を一つずつクリアする、あるいは継続して取り組むことを視覚で確認でき、一目で全体を把握できる形になっているのが秀逸だ。このように考えてみると、生徒に教えすぎるのではなく、生徒自らが考え行動に繋げられるヒントやきっかけを与えられることが重要だと思う。丁寧に全てを教えることに意識がいつてしまいがちだが、生徒の能力や実態に合わせ敢えて教えることを省く勇気も時に必要だ。そして授業の最終目標を見据え、マイルストーンをどの様に設定すれば良いのか、授業者はその必要性の有無も含め一度じっくり考えてみてはどうだろうか。

## 秋田高校授業研修（授業改善）年間計画 概要



### 「品性の陶冶～わが生わが世の天職いかに」 - 秋高キャリア教育テーマ 「秋高授業実践五項目」

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| [1] 知的好奇心の向上 | さらに深く学びたいという意欲につながる知的刺激に満ちた授業 |
| [2] 人間力の錬磨   | 専門プラスαのある授業、人間や社会について考えさせる授業  |
| [3] 思考力の養成   | 生徒が自ら「なぜ？」と考え、自ら問題を解く力を鍛える授業  |
| [4] 受験力の強化   | 受験問題の研究や指導法の工夫で、生徒に受験力をつける授業  |
| [5] 表現力の向上   | 思いや考えを自らの言葉で表現し他者に伝える力を伸ばす授業  |

# 令和5年度 秋田高校校内授業研究テーマ

生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

## 今年度の授業改善

重点課題

- ① 生徒の主体的な探究心を引き出すような、知的好奇心を刺激する授業
  - ・授業における仕掛けにより、さらに深く学びたいと思わせる。
  - ・生徒の興味や関心を高め持続させる、効果的な発問を設定する。
- ② Outputを意識した活動的な場面を設定し、生徒の気づきや深い学びを促す授業
  - ・ICTの効果的活用、授業形態の工夫などにより、活動的な場面を作る。
  - ・Outputを通じて他者と協働し、生徒の気づきや深い学びにつなげる。

### 「秋高授業実践五項目」

1. 知的好奇心の向上 さらに深く学びたいという意欲につながる知的刺激に満ちた授業
2. 人間力の錬磨 専門プラスαのある授業、人生や社会について考えさせる授業
3. 思考力の養成 生徒が自ら「なぜ？」と考え、自ら問題を解く力を鍛える授業
4. 受験力の強化 受験問題の研究や指導法の工夫で、生徒に受験力をつける授業
5. 表現力の向上 思いや考えを自らの言葉で表現し他者に伝える力を伸ばす授業

## 令和5年度 前期校内研究授業 実施要項

企画研修部

## 1 目的

- (1) 教科を越えた授業参観の実施を通して、生徒の学力向上に向けた効果的な授業について多様な意見を集約し、各教科で授業改善に活用する。
- (2) 教育実習期間に実施することで、教育実習生に本校の授業のあり方を示し、実習期間中の授業計画の参考にするとともに、教職員を目指し資質向上させていくための基礎とする。

## 2 標準実施日

令和5年5月16日(火)

\*教科の実情に照らし、標準実施日の週内に各教科の実施日を設定する

## 3 実施授業一覧(前期)

教科	科目	授業者	年組	実施日	曜日	校時	教室	上段:授業内容
								下段:到達目標
国語	言語文化	牧 留美子	1D	5/16	火	2	1D	「検非違使忠明のこと」(古文)
								古文の特徴を確認しつつ、動詞の活用について理解する。
地歴 公民	日本史 探究	伊藤健一	2C	5/16	火	3	2C	律令国家への道
								律令国家成立までの政治過程を理解する。
数学	数学Ⅱ	江畑美保	2E	5/16	火	3	2E	三角関数
								角の範囲に気をつけて三角方程式が解ける。
理科	理数 物理	西村航平	3G	5/18	木	4	3G	コンデンサーのつながりかえ
								「電気量保存と電位の関係式」と「エネルギー的観点」の双方の考え方をを用いて電荷分布を求めることができる。
保健 体育	武道 柔道	山田公一	1GH	5/15	月	3	柔道場	前回り受身・大腰
								正しい回転で前回り受身ができる。 投げられる力に逆らわずに受身ができる。
芸術	音楽Ⅰ	池田孝幸	1A	5/16	火	7	音楽室	リコーダーアンサンブル
								「グリーンスリーブス」を正しい運指で演奏し、他者と合わせることができる。
英語	英コミュ Ⅰ	金 敬子	1H	5/17	水	5	1H	CHAPTER 2 The Power of Design
								デザインがもつ「力」について、自分の経験などをもとに、考えを伝え合うことができる。

# 国語科（言語文化）学習指導案

日 時 : 令和5年5月16日(火) 2校時  
場 所 : 1D教室  
対 象 : 1年D組 34名  
授 業 者 : 牧 留美子  
教 科 書 : 『探究 言語文化』 桐原書店

## 1 単元（題材）名

古文入門「検非違使忠明のこと」（宇治拾遺物語）

## 2 単元（題材）の目標

- (1) 古語の特徴を理解し正確に音読できる。動詞の活用について理解できる。…（知識及び技能）
- (2) 正確な現代語訳をふまえて内容を的確に把握できる。…（思考力、判断力、表現力）
- (3) 説話を通して、当時の人々の価値観や精神について考えようとする。…（主体的に学習に取り組む態度）

## 3 単元（題材）と生徒

### (1) 単元（題材）

古文の入門期に読む説話である。4月に学習した児のそら寝に続き、宇治拾遺物語からの題材であり、生徒にとっては親しみやすい内容になっている。

### (2) 生徒観

男子20名、女子14名のクラスで、ペアワークやグループワークに主体的に参加する姿が見られる。国語に苦手意識のある生徒も多いが、高校古典のスタートにあたり、前向きに取り組んでいる。

### (3) 指導観

中学までは古典に親しみ、興味関心のある生徒も多いが、高校古典の文法で、苦手意識を感じる生徒が多いという印象がある。入門期の説話を通じて、古文特有の表現に触れ、文法事項が読解の手助けになることを実感できるように工夫していきたい。

## 4 本校の研究課題との関わり

研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

- ・古典文法のルール習得にあたり、協働的な活動を通じて、言語化して理解することを目指す

## 5 単元（題材）の指導計画

「検非違使忠明のこと」（宇治拾遺物語）（総時数4時間）

- (1) 本文の音読、現代語訳の確認、動詞の活用について … 2時間
- (2) 動詞の活用のまとめ … 1時間（本時3/4）
- (3) 「今昔物語集」などとの比較を通じて、当時の人々のものの見方について考える … 1時間

## 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	古語の特徴を理解し正確に音読できる。動詞の活用について理解し、活用表を完成できる。	古文の特徴に注意しながら、現代語訳をふまえて内容を的確に把握できる。	説話を通して、当時の人々の価値観や精神について考え、自己の考えを深めようとする。

## 7 本時の計画（本時 3/4時間）

### （1）本時の目標

- ・ 古典文法のテキストやプリントをもとに、動詞の活用のルールを理解することができる。（ア）「知識・技能」
- ・ 個人では文法のテキストを参照しながらプリント学習に取り組み、ペアワークやグループワークでは、互いに意見交換をして理解を深めようとしている。（ウ）「主体的に学習に取り組む態度」

時間	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習内容を確認する。</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習内容についてパワーポイントを用いて、生徒の発言を促す。</li> </ul>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     本文中の動詞について、活用の種類と活用形を見分けるポイントを分かりやすくまとめ、友達と共有しよう。                 </div>					
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文に出てくる動詞について、活用の種類と活用形を記入する。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文法のテキストやノートを参考にしよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な情報を得ながら動詞のルールを確認している。（ア・ウ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察</li> <li>・ シート</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「見分け方」を意識してペアで答えを確認し合う。</li> </ul>	ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間巡視し、単に答え合わせに終始していないか確認し、適宜声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見分け方のポイントを確認しながら答え合わせをしている。（ア・ウ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発言</li> <li>・ 話し合い</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上一段活用と下二段活用の特徴を確認しつつ、見分け方のポイントをつかむ。</li> </ul>	個人 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「見る」と「見ゆ」の活用の違いについて、どのように見分けたらいいか、ペアで伝え合おう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項を確認しつつ、個別の動詞について応用しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発言</li> <li>・ 話し合い</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文や例文を用いて、動詞の活用について学習プリントに取り組む。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間巡視し、取り組み状況に応じて、適宜声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「見分け方」を意識して、テキスト等を見ずに学習プリントに取り組んでいる。（A）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリント</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時の予告をする。</li> </ul>		



# 地歴・公民科（日本史探究）学習指導案

日 時 : 令和5年5月16日(火) 3校時  
場 所 : 2C教室  
対 象 : 2年C組 43名  
授 業 者 : 教諭 伊藤 健一  
教 科 書 : 『詳説日本史』山川出版社

## 1 単元（題材）名

第3章 律令国家の形成

## 2 単元（題材）の目標

- (1) 東アジア情勢と国内政治を関連付けながら、律令体制の成立過程を考察することができる。
- (2) 律令体制整備の過程について考察し、表現することができる。
- (3) 中国王朝との関係と政治への影響に着目しながら、律令体制の成立過程を理解しようとしている。

## 3 単元（題材）と生徒

### (1) 単元（題材）

律令国家の特色やその成立の意義を理解したいが、天智朝・天武朝・持統朝における個々の政治動向を単発的に理解することにとどまりがちな分野である。7世紀後半のダイナミックな展開に気付かせたい。

### (2) 生徒観

男子21名、女子22名、計43名のクラスである。やや受け身であるが、ペアワークなどには積極的に取り組み、学習に真摯に向かう姿勢や雰囲気醸成されている。

### (3) 指導観

律令国家が形成される過程を理解させる単元であり、その内容からは新たな国家体制が構築される力強さを感じる。個々の歴史事象を有機的に関連付けることができれば、歴史認識はさらに深化されるだろう。

## 4 本校の研究課題との関わり

研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

- ・律令国家はどのように形成されていくのか。内外の情勢との関連性を問いながら考察する。

## 5 単元（題材）の指導計画

律令国家の形成（総時数10時間）

- (1) 律令国家への道 ……3時間（本時2／10）
- (2) 平城京の時代 ……3時間
- (3) 律令国家の文化 ……2時間
- (4) 律令国家の変容 ……2時間

## 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の受容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。	天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。

7 本時の計画（本時 2 / 10 時間）

(1) 本時の目標

- ・蝦夷征討、白村江の戦い、壬申の乱など、それぞれの経緯や意義を理解し説明できる。(ア) (イ)
- ・外征の失敗や内乱が中央集権国家形成の動きを前進させた背景をとらえることができる。(イ) (ウ)

(2) 展開

時間	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習をとおして改新政治の方向性を確認する。</li> </ul>	ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改新政治によって中央集権国家を目指す政策方針が定められたことを再確認できるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークに参加し、再確認できている。(ア) (イ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・発言</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">乙巳の変や「改新の詔」の意義を再確認させながら、本時のねらいを意識させる。</div>				
展開 37分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料を活用して蝦夷征討の動きを確認し、そのねらいを考察する。</li> </ul>	個人 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料上の「アキタ」の初見に関心を持たせつつ、国家形成上の政府のねらいを理解できるよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初見史料に関心を持ち、政府の政策との関連を考察している。(イ) (ウ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・発言</li> <li>・プリント</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">史料の内容や政府のねらいを共有する。</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「中国の帝国構造も参考にして、政府が目指そうとした体制を推測してみよう」</div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白村江の戦いについて、その意義を理解する。</li> </ul>	一斉 個人 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国防のみならず内政の充実が必要であることに気付くよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事件の結果のみならず、事件がもたらした影響を理解できる。(ア) (ウ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・発言</li> <li>・プリント</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">政府がとるべき対応を共有する。</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「中央集権体制を確立させるために必要なことを考えよう」</div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大宝律令制定までの経緯、また壬申の乱の意義を理解する。</li> </ul>	一斉 個人 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7世紀後半の政策およびその特色をそれぞれ関連付けながら理解することを促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各政策について、その特色を理解している。(ア) (イ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・発言</li> <li>・プリント</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">壬申の乱の意義を、中央集権体制の確立と関連づけて考える。</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「壬申の乱の背景を、皇位継承をめぐる問題以外の面からも考えてみよう」</div>		
まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・律令国家形成の経緯を再確認する。</li> </ul>	個人 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・律令国家は、外への影響・外からの影響・内政の整備など、同時期に起こったさまざまな動きにともない形成されたことを理解できるよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な理解ができる。(ア) (ウ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・発言</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「日本」国号や「天皇」号は7世紀後半から使われ始めたと言われる。その意味を今日の授業と関連付けて考えさせる。</div>				

## 数学科（数学Ⅱ）学習指導案

日 時 : 令和5年5月16日(火) 3校時  
 場 所 : 2E教室  
 対 象 : 2年E組 37名  
 授 業 者 : 教諭 江畑 美保  
 教 科 書 : 『数学Ⅱ』数研出版

### 1 単元（題材）名

三角関数

### 2 単元（題材）の目標

- (1) 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質について理解できる。 (知識及び技能)  
 (2) 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できる。 (思考力、判断力、表現力等)  
 (3) 三角関数を含む様々な問題について単位円や公式を活用し考察しようとする意欲がある。  
 (学びに向かう力、人間性等)

### 3 単元（題材）と生徒

#### (1) 単元（題材）

数学Ⅰでは、 $0^\circ \sim 180^\circ$  までの角について正弦、余弦および正接について学び図形の性質の考察に活用してきた。数学Ⅱでは角の概念を一般角に拡張し、三角関数の性質についての理解を深め活用させたい。

#### (2) 生徒観

男子24名、女子13名、計37名のクラスである。学力差はあるものの、授業に臨む態度は良好で、発展的な内容にも興味をもって取り組む生徒が多い。

#### (3) 指導観

本時では $\theta + \alpha$ を含む方程式・不等式の問題を扱う。角の範囲に注意することを押さえ、単位円を利用した考察を深めさせたい。

### 4 本校の研究課題との関わり

研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

- ・本時の内容は生徒が間違いやすい内容である。誤答例を通して陥りやすいミスに気づかせ、他者と考えを共有させたい。

### 5 単元（題材）の指導計画

三角関数（総時数22時間）

- (1) 三角関数 … 13時間（本時1 / 13）  
 (2) 加法定理 … 9時間

### 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。	三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。	三角関数を含む方程式・不等式を解くことに取り組む意欲がある。

7 本時の計画 (本時 1 / 9時間)

(1) 本時の目標

- $\theta + \alpha$ を含む方程式・不等式について、角の範囲に注意しながら単位円を活用して考察することができる。  
(思考・判断・表現)

(2) 展開

時間	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 5分	$0 \leq \theta < 2\pi$ のとき $\sin\left(\theta + \frac{\pi}{3}\right) = \frac{1}{\sqrt{2}}$ を解け。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">【主発問】 どこが間違いだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 示された解答の間違いについて隣の人と確認し合う。</li> </ul>	  ペア   一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 黒板に誤答を示す。</li> <li>• どこが間違いなのか生徒に発表させる。</li> </ul>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>\alpha</math>の範囲について隣の人と確認し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 個人で演習に取り組んだ後、隣の人と答えを確認する。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 演習プリントに取り組む。</li> </ul>	ペア   個人  ペア   個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生徒に発表させながら模範解答を示す。</li> <li>• 角の範囲に注意しながら単位円を活用できているかを特に確認させる。</li> <li>• 演習プリントを配付。</li> <li>• 生徒の解答を書画カメラで投影する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 角の範囲に気をつけながら考察し、考え方を共有している。 (イウ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 観察</li> </ul>
まとめ 5分	本時を振り返る。	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時の内容の理解度を自己評価させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 方程式・不等式の解き方について理解している。 (ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 演習プリント</li> </ul>

## 理数科（理数物理） 学習指導案

日 時 : 令和5年5月18日(木) 4校時  
 場 所 : 3年G組教室  
 対 象 : 3年G組 物理選択者28名  
 授 業 者 : 西村 航平  
 教 科 書 : 物理 改訂版 啓林館

### 1 単元（題材）名

第4部 電気と磁気 第4節 コンデンサー

### 2 単元（題材）の目標

- (1) コンデンサーの性質を複数の見方・考え方で理解しようとする。 (関心・意欲・態度)  
 (2) コンデンサーに関わる定義式や関係式を用いる場面について適切に判断できる。 (思考・判断・表現)  
 (3) コンデンサーに接続した豆電球の光り方から流れている電流の大きさについてイメージできる。  
 (観察実験の技能)  
 (4) コンデンサーの電気容量や蓄えられる電気量・エネルギーがどんな要素で決まるのかを理解している。  
 (知識・理解)

### 3 単元（題材）と生徒

#### (1) 単元（題材）

コンデンサーは小学校理科で「電気を蓄えるもの」として簡単に学習しているが、中学校理科では全く触れていない。前時までにコンデンサーの基本的な性質を、電気容量を電界や電位差と関連付けて学習している。本時では電気量保存と電位の関係式を結びつけて考える必要のあるコンデンサーのつなぎかえについて扱う。

#### (2) 生徒観

理数科3年生であり、物理の本質的な部分を理解することに強い興味と関心を持っている生徒が多い。

#### (3) 指導観

コンデンサーのつなぎかえによる電荷分布の問題は電気量保存と電位の関係式から機械的に解くことができるが、本授業ではコンデンサーのつなぎかえを題材として「エネルギーが最小の状態が実現される」というあらゆる物理現象に共通する性質から電荷分布を求めることができることを理解させ、物理学に対する興味・関心を喚起したい。

### 4 本校の研究課題との関わり

#### 研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践 ～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

力学的なエネルギーからの類推により「電磁気現象もエネルギーが最小の状態が実現されるのではないか」という仮説を生徒から引き出し、計算によって確かめる。

### 5 単元（題材）の指導計画

第4部 電気と磁気 第1章 電界と電位 第4節コンデンサー（総時数5時間）

- (1) 電気容量・平行板コンデンサー…2時間  
 (2) コンデンサーに蓄えられるエネルギー…1時間  
 (3) コンデンサーの接続…2時間（本時2/2）

### 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 関心・意欲・態度	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 観察実験の技能	(エ) 知識・理解
評価の観点	コンデンサーの性質を複数の見方・考え方で理解しようとしている。	コンデンサーに関わる定義式や関係式を用いる場面について適切に判断できる。	コンデンサーに接続した豆電球の光り方から流れている電流の大きさについてイメージできる。	コンデンサーの電気容量や蓄えられる電気量・エネルギーがどんな要素で決まるのかを理解している。

7 本時の計画 (本時 2/2時間)

(1) 本時の目標

- ・コンデンサーのつなぎかえによる電荷分布を、電気量保存と電位の関係から求めることができる。  
(思考・判断・表現)
- ・エネルギーを物理現象の進行方向を決めるものとして捉えることができる。  
(知識・理解)

(2) 展開

時間	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 5分	・コンデンサーに関わる定義式や関係式について確認する。	一斉	・簡潔に説明する。		
展開 40分	・コンデンサーのつなぎかえの問題に電気量保存と電位の関係からアプローチする。	一斉 個人	・電気量保存と電位の関係式について、それぞれを生徒から引き出すようにする。	・成り立つ関係式を適切に用いることができる。(イ)	・観察 ・発表
	物理現象の進行方向は何で決まるのだろうか。 (つなぎかえとなぜ電荷は移動するのだろうか。)				
	・仮説を確かめるためにコンデンサーのつなぎかえの問題にエネルギー的な観点からアプローチする。	一斉 個人	・力学的な例を提示することで「エネルギー最小の状態」を目指してものごとが進行することを説明し、「電磁気現象にも共通する性質なのではないか」という仮説に至るようにさせる。	・適切に文字を設定し、エネルギーの和について立式することができる。(イ)	・観察
	エネルギーが小さくなる方向に現象が進行する具体例を挙げてみよう。				
	Google フォームに入力 (個人: 5分) ↓ 2~3名は口頭で 説明する(一斉: 5分)		・柔軟な発想が出てくるように、正解を書こうとしなくてもよいことを伝える。	・適切な具体例を挙げるができる。(エ)	・入力内容 ・発表
まとめ 5分	・エネルギーについての新たな認識を得たことを確認する。	一斉	・科目横断的な観点から、タンパク質のフォールディング等も同じ原理で駆動していることに触れる。		

# 保健体育科（武道・柔道）学習指導案

日 時 : 令和5年5月15日(月) 3校時  
 場 所 : 柔道場  
 対 象 : 1年GH組 19名 (G9名 H10名)  
 授 業 者 : 山田公一

## 1 単元（題材）名

武道・柔道

## 2 単元（題材）の目標

- (1) 正しい理合による投げ技を身に付ける。相手の動きに応じた基本動作から、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げたりするなどの攻防を展開することができる。（知識及び技能）
- (2) 伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、相手を尊重すること、健康・安全を確保することができる。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 自主的に取り組むとともに、相手を思いやり自己の責任を果たそうとすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

## 3 単元（題材）と生徒

### (1) 単元（題材）

我が国固有の運動文化である武道柔道の授業を通して、格闘競技の持つ本能的な楽しさや、攻防の中に課題を見つけ、その課題を合理的に解決するための工夫をすることの楽しさを味わいながら、相手を尊重する心と、正しい礼法で挨拶をするなどの伝統的な行動の仕方を、身に付けられるように指導していきたい。

### (2) 生徒観

中学で既習のため投げられることへの恐怖心を持った生徒は少なく、比較的、武道に興味関心を示す生徒が多く授業に対し意欲的である。

### (3) 指導観

例年、中学段階の技能の定着度が低く、前半は中学の復習に時間をかけることになるが、その中でも専門性の高い指導を行うことで生徒の興味関心を高め、柔道の持つ楽しさを味わいながら伝統的な行動の仕方までを身に付けられる指導をしていきたいと考えている。

## 4 本校の研究課題との関わり

研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

- ・正しい礼法などの伝統的な所作を身に付け、正しい理合による柔道技能を他者との協働、コミュニケーションを通して身に付ける。

## 5 単元（題材）の指導計画（総時数12時間）

- (1) 柔道について・受身 … 4時間（本時4／4）
- (2) 投げ技・連絡技 … 4時間
- (3) 固技 … 4時間

## 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい受身が身に付いている。</li> <li>・正しい理合による投げ技ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を尊重する態度、礼法が身に付いている。</li> <li>・相手を思いやった態度での投げ技ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的、積極的に技能を身に付けようとしている。</li> <li>・相手を尊重し、コミュニケーションの中から正しい理合を理解している。</li> </ul>

7 本時の計画（本時 4 / 4時間）

(1) 本時の目標

- ・ 正しい受身ができる …… （知識・技能）
- ・ 相手を思いやった態度で投げることができる …… （思考力・判断力・表現力）

(2) 展開

時間	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正座での挨拶</li> <li>・ 本時の活動を理解</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正座での挨拶、出欠確認</li> <li>・ 本時の活動を確認する</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日は前回り受身の2回目です。</li> <li>・ 今日は練習用の膝車ではなく、正しい膝車で横受身をします。</li> <li>・ そして大腰で投げ合うところまでです。頑張りましょう。</li> </ul>				
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備運動</li> <li>・ 回転運動</li> <li>・ 動きの中で後受身</li> <li>・     "     横受身</li> <li>・ 立った状態からの膝車で投げ合い受身をとる</li> <li>・ 前回り受身</li> <li>・ ペアになり指摘し合う</li> </ul>	<p>一斉</p> <p>ペア</p> <p>ペア</p> <p>ペア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しっかりと行わせる。</li> <li>・     "</li> <li>・ 徐々に動きを早めるよう声をかける。</li> <li>・ 前回り捌き（90度）を理解させ、大きく引き出すことで相手を投げる事が出来るようにする。</li> <li>・ 俵型、前転型を指摘する。</li> <li>・ 指摘し合いながら正しい形を身に付けさせる。</li> <li>・ 腰に乗せてから投げる。</li> <li>・ 前回り捌きで投げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しっかりと行っている。（ウ）</li> <li>・ 少しずつ動きを早くして行っている。（ア）</li> <li>・ 怖がらずに受身が出来ている。（ア）</li> <li>・ 相手を思いやり引き手離さずに投げきっている。（イ）</li> <li>・ 前回り受身の正しい形を理解し、指摘し合っている。（ア）</li> <li>・ 相手を思いやり引き手離さずに投げきっている。（イ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアになりお互い指摘し合い正しい形の前回り受身ができていますか確認しましょう</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうしたら小さい人が大きい人を、力の弱い人でも大きい人を投げることが出来るでしょう。</li> <li>・ 次の時間までの課題としますので考えてください。</li> </ul>				
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整列</li> <li>・ 次回の予定を理解</li> <li>・ 挨拶</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整列させる。</li> <li>・ 本時のまとめと次回の予告。</li> <li>・ 正座で挨拶。</li> </ul>		



# 芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

日時：令和5年5月16日（火）7校時

場所：音楽室

対象：1年A組18名（男子10名、女子8名）

授業者：教諭 池田 孝幸

教科書：『音楽Ⅰ Tutti+』（教育出版）

## 1 単元（題材）名 「グリーンスリーブス」（リコーダー二重奏）

### 2 単元（題材）の目標

- (1) リコーダーの正しい運指を身に付け、楽譜に書かれている記号や楽曲の構成を理解できる。
- (2) 「グリーンスリーブス」について、楽曲を構成している要素を感じ取り、各要素の表現を工夫して演奏することができる。
- (3) リコーダー二重奏の音色や響きを味わい、演奏の相互評価をすることができる。

### 3 単元（題材）と生徒

#### (1) 題材

「グリーンスリーブス」 イングランド民謡

ソプラノ・アルト2種類のリコーダーによる響きを味わい、楽曲を構成する要素を知覚した上で演奏を作り上げていくことは、より深くリコーダーアンサンブルへ親しむことにつながると考える。

#### (2) 生徒観

明るく活発で授業中積極的に活動することができる。生徒同士での練習や活動もしっかりできる生徒が揃っており、より高い音楽表現を求めることのできるクラスである。

#### (3) 指導観

グループ練習や調べ学習など、生徒の協働的な活動を多く取り入れ、自ら楽曲の構成や練習の方法を気付くように進める。また、発想記号などを基にして、音楽のイメージを膨らませることで、生徒が高い意識を持って取り組むアンサンブルへ仕上げたい。

## 4 本校の研究課題との関わり

研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

- ・ 楽曲がいくつかの要素で構成されていることを学び、グループでの協働的な練習活動を通じて、それぞれの要素について表現を工夫することによって、より高い音楽表現を求めさせる。

## 5 単元（題材）の指導計画

「グリーンスリーブス」（総時数4時間）

- (1) 範奏の鑑賞と個人練習 . . . 1時間
- (2) グループ練習による表現の工夫 . . . 2時間（本時1／2）
- (3) 発表および相互評価 . . . 1時間

## 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	担当するリコーダーの正しい運指を身に付け、楽譜に書かれている記号や楽曲の構成を理解して、演奏表現に生かしている。	楽曲を構成する要素を把握し、それぞれについて工夫したことを発表において適切に表現している。	グループ練習中の協働的な活動を通じて、演奏表現の工夫や発表の相互評価に積極的に取り組もうとしている。

5 本時の計画 (2/4)

(1) 本時の目標

- ・「グリーンズリーヴス」を構成する要素を把握し、リズムについて工夫した表現をしながら演奏できる。  
 ……(イ) 思考・判断・表現
- ・グループごとの発表を相互評価しながら鑑賞できる ……(ウ) 主体的に学習に取り組む態度

(2) 展開

段階	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 10分	1 「コンコーネ 50 番 No.1」を演奏する	一斉	・正しい姿勢、正しい奏法を意識して、音を合わせる	・自ら正しい姿勢や正しい奏法を心掛け、周囲の音との調和を確認しているか(ウ)	・観察
	2 「グリーンズリーヴス」を全員で演奏する	グループ	・グループに分かれ、できるだけお互いに離れて演奏する		・観察
	3 演奏について各パート内で話し合う	グループ	・グループごとに反省をし、今回の目標を見出させる		・観察、発言
展開	4 本時の目標の確認をする	一斉	・生徒全員に目標が明確に伝わるようにする		・観察、ワークシート
35分	主発問:6/8 拍子特有のリズムについて、どのような表現が適切かグループで考えよう。				
	5 楽曲を構成する要素について説明を聞く	一斉	・作品全体がいくつかの要素で構成されていることを確認する。	・自ら積極的に練習へ取り組むことができたか(ウ) ・楽曲を構成する要素を意識し、表現を工夫しようとしたか(ウ) ・正しい運指で、楽譜にある記号を理解して演奏することができたか(ア) ・積極的に相互評価へ取り組むことができたか(ウ)	・観察、ワークシート
	6 各グループに分かれて、練習に取り組む	グループ	・教師が各グループを巡視し、練習状況を確認して練習が滞っている場合はアドバイスをし、進むような配慮をする。 ・各グループがお互いの距離をできるだけ取るよう、練習位置に配慮させる		・観察
7 グループごとに発表し、練習の成果をお互いに聴き合う	グループ	・各グループの発表をワークシートで相互評価する。	・観察		
	補助発問:それぞれのグループがどのような表現の工夫をしたか、違いを聴き取ろう。				・観察、ワークシート
まとめ 10分	8 相互評価シートの完成	個人	・相互評価シートに各グループの評価を記入した上、感想とともに次時へ向けて自グループのさまざまな課題を記録する。	・進んでシートへ記入を行い、次時への課題を見つけようとしているか(ウ)	・観察、ワークシート
	9 次時の目標確認	一斉			

# 英語科（英語コミュニケーションⅠ）学習指導案

日 時 : 令和5年5月17日(水) 5校時  
 場 所 : 1H教室  
 対 象 : 1年H組 35名  
 授 業 者 : 教諭 金 敬子  
 教 科 書 : 『New Rays English Communication Ⅰ』  
 いいずな書店

## 1 単元（題材）名

CHAPTER 2 The Power of Design

## 2 単元（題材）の目標

- (1) 接続詞、make を用いた構文の意味や働きを理解し、適切な場面で正しく使うことができる。（知識及び技能）
- (2) デザインのもつ人間の行動や社会への影響についての情報を理解し、要点を他者に伝えることができる。  
 （思考力、判断力、表現力）
- (3) 「デザインがもつ力」について自分なりの考えをもち、他者との交流を通して更に深めようとしている。  
 （学びに向かう力、人間性）

## 3 単元（題材）と生徒

### (1) 単元（題材）

デザインがもつ3つの特性を理解し、人間の行動や社会に与えている影響について考えを深める内容となっている。身近に存在する物に目を向け、1つの物事を多角的に捉えることの重要性を意識させていきたい。

### (2) 生徒観

授業への集中力が高く、落ち着いている。ペア活動にも意欲的である。更に自信を持って言語活動に取り組めるよう、支援していきたい。

### (3) 指導観

音読やリテリングに力を入れ、英文の内在化を図っている。” Behind the Story, Beyond the Story” というコンセプトのもと、題材をできるだけ学習者に近づけ、深い理解と学習意欲の喚起を促したいと考えている。

## 4 本校の研究課題との関わり

研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践 ～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

- ・題材を自分事として捉え、主体的に考えることができるような場面設定を心掛け、言語活動を通して理解を深めさせる。

## 5 単元（題材）の指導計画

CHAPTER 2 The Power of Design（総時数7時間）

- (1) Introduction & Part 1 ... 1時間（本時1／7）
- (2) Part 2～4 ... 4時間
- (3) Recap & Retell, Grammar, Vocabulary ... 2時間

## 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評定の観点	・接続詞や”make+O+do[形容詞]”の働きを理解している。 ・デザインについての情報を読み取り、自分の考えを伝える技能を身につけている。	・聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、デザインについての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。	・聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、デザインについての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。

## 7 本時の計画（本時 1 / 7時間）

### （1）本時の目標

- ・読み取った内容を整理しながら、伝え合うことができる。（思考力、判断力、表現力）
- ・身近な物のデザインについての気付きを他者と共有し、深めようとしている。（学びに向かう力、人間性）

### （2）本時の展開

時間	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 10分	Words Hunting ・ペアで単語を答えたり意味を説明したりする。	ペア	・必要に応じてヒントを与えるなどして支援する。		
展開 35分	1 写真から、デザインについて感じたことをペアで伝え合う。	個 ペア	・既習事項や経験に関連付けながら、デザインについて感じたことを、共有させる。	・自分の言葉で伝えようとしている。…（イ）	・観察 ・発言
	Today's Goal : To express your ideas on "design" to your partner				
	2 本文を聞く	一斉			
	3 内容に関する質問に答える。	個	・リテリングにつながるキーワードを、やりとりから引き出す。	・本文の要点を理解している。…（ア）	・発言
	4 本文を音読する。	一斉 個 ペア	・意味のまとまりを意識し、できるだけ英文を頭の中に残すよう工夫して取り組ませる。		
	Let's explain the exhibition as a guide to your partner.				
5 本文からキーワードを抜き出して、ペアに伝える。	個 ペア	・聞き手に配慮しながら、自分の言葉で伝えるよう促す。	・要点を整理して、相手に分かりやすく伝えようとしている。…（イ）	・ワークシート ・観察 ・発言	
What makes you think "good design"?					
6 写真から、気づいたことや感じた点をペアに伝える。	ペア	・デザインに対する見方が広がるよう促す。	・デザインが持つ力について見方を広げ、伝え合おうとしている。…（ウ）	・観察 ・発言	
まとめ 5分	・本時の学習の振り返りを行う。	個	・次時の活動について、見通しを与える。		

令和5年度

秋田県立秋田高等学校

# 授業改善強化期間

10月3日(火)～11月30日(木)

## 研究テーマ

### 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～ 新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

#### 期間中の授業改善に関する主なスケジュール

※取組の詳細については、Classroom 等にて適宜、お知らせ・共有します

- 10月 3日(火) 授業参観(期間内) ※「参観シート」の活用
- 10月 5日(木) 教科打合せ  
○指導案の検討開始  
※指導助言者(外部)とのやり取り
- 10月26日(木) 指導案提出 〇切  
『生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践  
～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～』
- 10月31日(火) 参加者の申し込み 〇切
- 11月 7日(火) 教科打合せ  
○校内授業研究における役割分担と指導の最終確認
- 11月 9日(木) 校内授業研究会  
受付 13:45～14:15  
授業参観 14:25～15:15(50分)  
協議会 15:30～16:40(70分)  
授業者 千田 玲央奈(1年G組:言語文化)  
菊地 達八(1年E組:地理総合)  
野呂 耕一郎(2年G組:情報I)
- 11月13日(月) 校内授業研究会「教科協議会報告書」の提出 〇切



## 令和5年度 校内授業研究会(公開)

### 研究テーマ 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

11月 9日 (木)

- 受付 13:45～14:15 (30分)
- 授業参観 14:25～15:15 (50分)
- 協議会 15:30～16:40 (70分)

### [ 研究授業一覧 ]

教科	科目	指導者	クラス	会場	内容
国語	言語文化	千田 玲央奈	1G	31教室	随筆と日記「帰京」(土佐日記)
地理歴史	地理総合	菊地 達八	1E	21教室	地球環境問題(熱帯林の減少)
情報	情報 I	野呂 耕一郎	2G	情報室	第2章 プログラミング C プログラミングの方法

\*授業会場へは係がご案内します。

協議会会場は国語と地理歴史は授業と同会場で、情報は3Dの教室での実施となります。

○参加者名簿

	所属	職名	氏名	参観	協議会
1	秋田県立大学	教授	伊藤 大輔	情報	情報 1
2	秋田県立大学	准教授	廣田 千明	情報	情報 2
3	秋田県立大学	特任教授	西 聡	情報	情報 3
4	国際教養大学	特任教授	精山 明敏	情報	情報 4
5	秋田公立美術大学	准教授	菅原 香織	地理歴史	地理歴史 3
6	秋田公立美術大学	教授	野村 松信	情報	情報 5
7	五城目高校	教諭	川村 幸生	情報	情報 1
8	秋田西高校	教諭	阿部 由佳莉	国語	
9	秋田南高校	教諭	小山 光春	情報	情報 2
10	秋田商業高校	教諭	奥山 桃子	国語	
11	仁賀保高校	教諭	富野 晶子	国語	
12	仁賀保高校	臨時講師	藤田 憲拓	情報	
13	西仙北高校	教諭	武田 隼人	地理歴史	地理歴史 1
14	角館高校	教諭	松尾 広江	情報	
15	横手高校	教諭	高橋 奨	国語	国語 1
16	横手高校	教諭	成田 陽香	国語	国語 2
17	国学館高校	教諭	田口 利彦	地理歴史	地理歴史 2
18	国学館高校	教諭	菊地 智之	情報	情報 3
19	国学館高校	教諭	小林 宏美	国語	国語 3
20	秋田高校	教育専門監	佐藤 真弓	情報	情報全体司会
21	秋田高校	教育専門監	土門 高士	国語	国語 4 司会
22	秋田高校	教育専門監	佐々木 繁樹	国語	国語 1 司会
23	秋田高校	教諭	南都 勲	情報	情報 4
24	秋田高校	教諭	西村 充司	情報	情報 5
25	秋田高校	教諭	鈴木 和人	情報	情報 2 司会
26	秋田高校	教諭	富樫 良恵	国語	国語全体司会
27	秋田高校	教諭	佐々木 裕之	地理歴史	地理歴史 3 司会
28	秋田高校	教諭	秋田 法俊	地理歴史	地理歴史 4 司会
29	秋田高校	教諭	加茂 玲子	地理歴史	地理歴史 1
30	秋田高校	教諭	齊藤 真一	地理歴史	地理歴史 2 司会
31	秋田高校	教諭	金 敬子	地理歴史	地理歴史 3
32	秋田高校	教諭	松橋 弘光	情報	情報 3 司会
33	秋田高校	教諭	池田 孝幸	情報	情報 4
34	秋田高校	教諭	田口 琢央	地理歴史	地理歴史全体司会
35	秋田高校	教諭	武石 知也	情報	情報 1 司会
36	秋田高校	教諭	角崎 綾子	情報	情報 2
37	秋田高校	教諭	伊藤 健一	地理歴史	地理歴史 1 司会
38	秋田高校	教諭	打川 史子	地理歴史	地理歴史 2
39	秋田高校	教諭	斉藤 尚史	情報	情報 3
40	秋田高校	教諭	牧 留美子	国語	国語 2 司会
41	秋田高校	教諭	坂本 公正	国語	国語 3 司会
42	秋田高校	教諭	江畑 美保	情報	情報 4 司会
43	秋田高校	教諭	遠藤 金吾	情報	情報 1
44	秋田高校	教諭	三浦 千寿子	国語	国語 4
45	秋田高校	教諭	菊地 文雄	地理歴史	地理歴史 3

46	秋田高校	教諭	藤原 淳	国語	国語 1
47	秋田高校	教諭	村越 裕悦	地理歴史	地理歴史ファシリテーター
48	秋田高校	教諭	須田 真	地理歴史	地理歴史 4
49	秋田高校	教諭	三浦 藍子	英語	国語 1
50	秋田高校	教諭	佐藤 栄幸	情報	情報 5
51	秋田高校	教諭	菅野 愛	国語	国語記録
52	秋田高校	教諭	伊東 裕	地理歴史	地理歴史 1
53	秋田高校	教諭	金野 寛之	地理歴史	地理歴史 2
54	秋田高校	教諭	目黒 大祐	情報	情報 3
55	秋田高校	教諭	瀬尾 達也	国語	国語 2
56	秋田高校	教諭	西村 航平	国語	国語 4
57	秋田高校	教諭	神尾 健太郎	情報	情報 5 司会
58	秋田高校	教諭	沢田石 智	地理歴史	地理歴史 3
59	秋田高校	教諭	奈良 紳也	情報	情報 1
60	秋田高校	教諭	藤井 翼	情報	情報ファシリテーター
61	秋田高校	教諭	伊藤 愛梨	地理歴史	地理歴史 4
62	秋田高校	臨時講師	佐賀 薫	国語	国語 3
63	秋田高校	臨時講師	佐藤 貞夫	情報	情報 2
64	秋田高校	臨時講師	藤澤 真樹	地理歴史	地理歴史記録
65	秋田高校	臨時講師	加賀 智大	情報	情報記録
66	秋田高校	臨時講師	阿部 歩輝	国語	国語ファシリテーター
67	秋田高校	非常勤講師	岩川 克敏	地理歴史	地理歴史 4

## グループワーク／指導・助言

### ●国語 言語文化

[指導・助言] 櫻田 瑞子 氏 (秋田県教育庁高校教育課 主任指導主事)

所属	役割	氏名	班
秋田高校	授業者	千田 玲央奈	
秋田高校	司会	富樫 良恵	
秋田高校	ファシリテーター	阿部 歩輝	
秋田高校	記録	菅野 愛	
横手高校		高橋 奨	国 1
秋田高校		藤原 淳	国 1
秋田高校		三浦 藍子	国 1
秋田高校	1 班司会	佐々木 繁樹	国 1
横手高校		成田 陽香	国 2
秋田高校		瀬尾 達也	国 2
秋田高校	2 班司会	牧 留美子	国 2

所属	役割	氏名	班
国学館高校		小林 宏美	国 3
秋田高校		佐賀 薫	国 3
秋田高校	3 班司会	坂本 公正	国 3
秋田高校		三浦 千寿子	国 4
秋田高校		西村 航平	国 4
秋田高校	4 班司会	土門 高士	国 4



## ●地理歴史科 地理総合

[指導・助言] 佐藤 央 氏 (秋田西高等学校 教育専門監)

所属	役割	氏名	班
秋田高校	授業者	菊地 達八	
秋田高校	司会	田口 琢央	
秋田高校	ファシリテーター	村越 裕悦	
秋田高校	記録	藤澤 真樹	
西仙北高校		武田 隼人	地1
秋田高校		加茂 玲子	地1
秋田高校		伊東 裕	地1
秋田高校	1班司会	伊藤 健一	地1
国学館高校		田口 利彦	地2
秋田高校		打川 史子	地2
秋田高校		金野 寛之	地2
秋田高校	2班司会	齊藤 真一	地2

所属	役割	氏名	班
秋田公立美術大学		菅原 香織	地3
秋田高校		金 敬子	地3
秋田高校		菊地 文雄	地3
秋田高校		沢田石 智	地3
秋田高校	3班司会	佐々木 裕之	地3
秋田高校		須田 真	地4
秋田高校		伊藤 愛梨	地4
秋田高校		岩川 克敏	地4
秋田高校	4班司会	秋田 法俊	地4

## ●情報科 情報I

[指導・助言] 近藤 俊春 氏 (秋田県教育庁高校教育課 指導主事)

所属	役割	氏名	班
秋田高校	授業者	野呂 耕一郎	
秋田高校	司会	佐藤 真弓	
秋田高校	ファシリテーター	藤井 翼	
秋田高校	記録	加賀 智大	
秋田県立大学		伊藤 大輔	情1
五城目高校		川村 幸生	情1
秋田高校		遠藤 金吾	情1
秋田高校		奈良 紳也	情1
秋田高校	1班司会	武石 知也	情1
秋田県立大学		廣田 千明	情2
秋田南高校		小山 光春	情2
秋田高校		角崎 綾子	情2
秋田高校		佐藤 貞夫	情2
秋田高校	2班司会	鈴木 和人	情2

所属	役割	氏名	班
秋田県立大学		西 聡	情3
国学館高校		菊地 智之	情3
秋田高校		齊藤 尚史	情3
秋田高校		目黒 大祐	情3
秋田高校	3班司会	松橋 弘光	情3
国際教養大学		精山 明敏	情4
秋田高校		南都 勲	情4
秋田高校		池田 孝幸	情4
秋田高校	4班司会	江畑 美保	情4
秋田公立美術大学		野村 松信	情5
秋田高校		西村 充司	情5
秋田高校		佐藤 栄幸	情5
秋田高校	5班司会	神尾 健太郎	情5

## 協議会の進め方

### [協議会の形式]

◎ワークショップ形式で「マトリクス法」を用いて協議します（グループワーク→全体共有）

※Chromebook（Jamboard）を使用します。各協議会の説明にしたがって進めてください。

マトリクスは $n \times n$ の表です。今回の協議会では $2 \times 3$ の表を用います。

[タテの項目] ①主発問／②新たな問いや気づきを引き出す

[ヨコの項目] ①よい点・取り入れたい点／②課題／③改善の具体的手立て

#### ★マトリクス法のメリット

- ・付箋をセルに置きながら話すので効率的になる
- ・授業改善の視点がどこにあるのか可視化される

### [協議時間]

15:30～16:40（70分）

### [次第]

I. 開会

II. 授業者、指導・助言者の紹介

授業者から研究授業の振り返り（5分）

III. ワークショップ（50分）

① 説明（Jamboard のセッティングを含む）（5分）

② 授業参観の振り返り ※個別の活動（10分）

③ グループワーク（付箋の内容紹介→構造化）（25分）

④ 全体共有（10分）

IV. 指導・助言 ※研究授業・協議会全般について（15分）

V. 閉会

## [ワークショップの流れ]

1. 目的と方法の共有 ◎全体進行から説明があります

2. Jamboard の準備 Classroom への参加 [クラスコード : xrmvuxq]

3. 授業参観の振り返り [10分程度] ※個別の活動

★授業者からコメントをいただきます

[主発問・補助発問] [新たな問いや気づきを引き出す] に焦点をあてて、それぞれ「よい点 (青色付箋)」「課題 (黄色付箋)」「改善の具体的手立て (ピンク付箋)」に入力します。

★項目ごとに、付箋に入力しましょう

★付箋1枚につき、一つの内容を簡潔に入力しましょう

4. グループワーク [25分程度] ◎グループ活動は班司会がリードします

(1) 付箋の内容を紹介し合いながら、整理したり関連付けたりしましょう

★テキストボックスで見出しをつけたり、因果関係のあるものや対立するもの等を図形で結んだりして、意見・アイデアの構造化を図りましょう

→ [よい点] について共通理解を図りましょう

→ [課題] と感じたところを話し合いましょう

→ 授業者に対する [改善の手立て] を具体的に提案しましょう

5. 全体共有 [10分程度] ◎全体進行がリードします

(1) グループワークの成果発表

★各グループの成果を共有しましょう

★ (時間があれば) グループ発表への質疑を行いましょう

(2) 研修成果の確認

★授業改善のポイントを整理しましょう

### ■協議会の振り返りについて

◎「google フォーム」で振り返りを行います (校内参観者)

[質問項目 (予定) ]

・ワークショップ (評価) ▶ ワークショップから見えた授業改善の課題 (自由記述)

・授業研究会全般 (評価) ▶ 研究会を通しての感想、自身の考えの変容 (自由記述)

・明日から、自身の実践で変えていきたいこと (自由記述)

# 授業参観シート

★授業参観でメモし、協議会のグループワークに役立てましょう

## ■ 授業参観の視点

構成と主発問	教師の説明等	板書と教材等	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業目標の明確化</li> <li>・魅力ある主発問</li> <li>・学びの空間、言語活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問の質や効果</li> <li>・言葉や表情</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視認性、計画性</li> <li>・プリント、副教材</li> <li>・ICTの効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の発見・解決</li> <li>・問いを発する</li> <li>・興味・関心の持続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現し意見を共有</li> <li>・考えを深め合う協働</li> <li>・思考の言語化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の掘り下げ</li> <li>・単元の見方・考え方</li> </ul>

※協議会のグループワークでは、[主発問・補助発問] [新たな問いや気づきを引き出す] に焦点をあて、それぞれ「よい点（青色付箋）」「課題（黄色付箋）」「改善の具体的手立て（ピンク付箋）」に分けて整理し協議します。

	よい点（青）	課題（黄）	改善の手立て（ピンク）
主発問・補助発問			
（主体的な探究心・活動的な場面） 新たな問いや気づきを引き出す			

# 国語科（言語文化）学習指導案

日 時 : 令和5年11月9日(木) 6校時  
場 所 : 1G教室  
対 象 : 1年G組 35名  
授 業 者 : 教諭 千田 玲央奈  
教 科 書 : 『探究 言語文化』 桐原書店

## 1 単元（題材）名

随筆と日記「帰京」（土佐日記）

## 2 単元（題材）の目標

- (1) 文法事項や重要語句を理解して正確に現代語訳し、内容をしっかりと理解することができる。 … (知識及び技能)
- (2) 日記の結語に込められた作者の心情について考察することができる。 … (思考力、判断力、表現力)
- (3) 作者の心情について話し合いに意欲的に臨み、考えを深めようとする。 … (学びに向かう力、人間性等)

## 3 単元（題材）と生徒

### (1) 単元（題材）

作者である紀貫之が土佐守の任期を終えて、帰京して屋敷に入るまでの旅を記している。書き手を女性に仮託し、平仮名を使用することで、従来の記録的な男性の漢文体日記にはなかった自由な表現がなされており、「日記文学」という新しい文学の領域を創造した。内容の中心は土佐国で亡くした娘をしのぶ作者の心情である。

### (2) 生徒観

男子20名、女子15名のクラスで、文法事項等に苦手意識があり、正確な現代語訳に難儀している生徒も多い。しかし、授業を展開する中で古典のものの見方や考え方に興味を示し、学習や話し合い活動に対しても積極的に取り組んでいる。

### (3) 指導観

文法事項や重要語句を理解し、現代語訳に生かす力を身に付けさせるだけではなく、日記文学の特徴と土佐日記の文学史的価値も理解させたい。また、作者の心情変化の理由を捉えさせつつ、作品に対する理解を深めさせたい。

## 4 本校の研究課題との関わり

**研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践**

**～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～**

- ・さまざまな解釈があるものに対して正解のない問いを考える。

## 5 単元（題材）の指導計画

「帰京」（土佐日記）（総時数3時間）

- (1) 正しく音読し、文法事項や重要語句を確認しながら現代語訳する … 1時間
- (2) 帰京したときの心情と作者の亡児への哀惜について理解する … 1時間
- (3) 日記の結語に込められた作者の心情について考える … 1時間（本時）

## 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	文法事項や重要語句を理解して正確に現代語訳し、内容をしっかりと理解している。	日記の結語に込められた作者の心情について考察している。	作者の心情について話し合いに意欲的に臨み、考えを深めようとしている。

## 7 本時の計画 (本時 3/3時間)

### (1) 本時の目標

- ・ 日記の結語に込められた作者の心情について考察することができる。 (思考力、判断力、表現力)
- ・ 作者の心情について話し合いに意欲的に臨み、考えを深めようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

時間	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者の心情の変化を確認する。</li> <li>・ 自分事として捉え、思いや考えを伝え合う。</li> </ul>	一斉  個人 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キーワードを提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     日記や作文を破り捨てたくなるのは、どんなときか。                 </div>		・ 観察
展開 35分	目標：「とまれかうまれ、とく破りてむ。」とあるが、作者がこのように書いた理由を考えよう。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項を振り返り、ペアでの話し合いの内容も踏まえ、考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     話し合うことによって深まった答えをChromebookの共同編集機能で可視化する。                 </div>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導をしながら、生徒の取組を観察する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     当時としては画期的なこの作品をどうして「破りてむ」と書いたのか。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者の心情について考察している。(イ)</li> </ul>	・ 観察
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表を聞き、自分たちの考えと比較する。</li> </ul>	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Classroomに投稿したスライドに入力させ、発表の手順等について指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いに意欲的に臨んだ上で、考えを深めようとしている。(ウ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発言</li> <li>・ 話し合い</li> <li>・ 提出課題</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループの発表を参考にした上で自分の考えをまとめる。</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他グループの発表を参考にして自分の考えを広げたり深めたりできるようにメモ等を促す。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数人発表をし、全体で共有する。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 俯瞰的に捉え、「正解のない問いを考える」楽しさを味わわせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリント</li> <li>・ 発言</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数人発表をし、全体で共有する。</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要点を確認する。</li> </ul>		
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時を振り返り、自己評価する。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気づきや自己の変容についてまとめるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者の発表や意見から自分自身の考え方を深めている。(イ・ウ)</li> </ul>	・ プリント

# 地理歴史科（地理総合）学習指導案

日 時 : 令和5年11月9日(木) 6校時  
 場 所 : 1E教室  
 対 象 : 1年E組 35名  
 授 業 者 : 教諭 菊地 達八  
 教 科 書 : 『地理総合』東京書籍  
 『新詳高等地図』帝国書院編集部編

## 1 単元（題材）名

B 国際理解と国際協力（2）地球的課題と国際協力 ②地球環境問題（熱帯林の減少）

## 2 単元（題材）の目標

- (1) 熱帯林の減少の要因や影響、国際的な取組について、諸資料から読み取り、基本的な事柄について理解することができる。（知識及び技能）
- (2) 熱帯林の減少について、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 熱帯林の減少に対する関心をもち、意欲的に追究し捉えようとする。（学びに向かう力、人間性等）

## 3 単元（題材）と生徒

### (1) 単元（題材）

高等学校学習指導要領解説のねらいに即し、本単元では、熱帯林の減少について、地域の結びつきに着目させて主題を設定し多面的・多角的に考察させることを通して、国際協力の必要性について理解させたい。

### (2) 生徒観

1年E組（35名）の生徒は、前期の授業アンケートにおいて地理総合に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。その一方で、前期中間・期末考査の結果から、選択肢の理由を記述する問題や地理的事象の背景や事象間の関連性を記述する問題の正答率が低い点が課題として挙げられる。

### (3) 指導観

本単元では熱帯林の減少について、地域の結びつきに着目させて、設定した主題に対して多面的・多角的に考察させる。その上で、各国の取組や国際協力の必要性を理解させるように構成する。

## 4 本校の研究課題との関わり

研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

- ・地球環境問題について諸資料から多面的、多角的に考察させることを通じて、地球環境問題が抱える問題の構造を理解させ、自分自身にも関わる問題であることに気付かせたい。

## 5 単元（題材）の指導計画

熱帯林の減少（総時数3時間）

- (1) 熱帯林の減少がもたらす悪影響…1時間
- (2) 熱帯林の減少の要因…1時間
- (3) 熱帯林の減少に対する国際的な取組…1時間

## 6 単元（題材）と評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	熱帯林の減少の要因や影響、国際的な取組について、諸資料から読み取り、基本的な事柄について理解している。	熱帯林の減少について、地域性を踏まえて、多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	熱帯林の減少に対する関心をもち、意欲的に追究し捉えようとしている。

## 7 本時の計画（本時 2／3時間）

### （1）本時の目標

- ・生産国以外の経済活動が、生産国の農園開発を促進させ、熱帯林の減少が深刻化する構造について理解することができる。（知識及び技能）
- ・農園開発に伴う熱帯林の減少に関する諸資料から多面的、多角的に考察して、その過程や結果を適切に表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）

### （2）展開

時間	生徒の学習活動	形態	指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 5分	1 熱帯林の減少率を示す統計地図とアブラヤシ栽培面積のグラフを関連付けて読み取る。	一斉	・生徒の思考を学習課題へ繋げさせるために、2つの統計資料を関連付けて読み取らせる。		
学習課題：熱帯林が減少しているのにも関わらず、なぜアブラヤシ農園の開発を進めてしまうのか。					
展開 35分	2 アブラヤシ農園を開発・利用する要因について、生産者、加工・販売業者、消費者の立場から必要な資料を読解して考察する。 (1) 個人で考察する。 (2) 考察内容をグループで共有する。 (3) グループの代表者を中心に全体で共有する。 3 農園開発に伴う熱帯林の減少について生産者、加工・販売業者、消費者の関係性について考察する。	個人 ・ グループ ・ 一斉  グループ ・ 一斉	・アブラヤシ農園の開発は、生産から消費に至るまで様々な立場に経済的利益をもたらすことを理解させるために、生産者、加工・販売業者、消費者という役割を決めて、諸資料を考察させる。 ・複数資料について効率的に読解させるため、グループで役割分担させて取り組ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">補助発問：3つの立場はどのように関係し合っているのだろうか。</div> ・消費者や加工・販売業者の経済活動が農園開発を促進させることに気付かせる。	・アブラヤシ農園を開発する要因について多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。(イ)	・プリント
まとめ 10分	4 学習課題に対する答えについて、キーワードを用いて学習プリントにまとめる。	一斉 ・ 個人	・本時のねらいに即して振り返りをさせるために、キーワードを設定してまとめさせる。	・生産国以外の経済活動が農園開発を促進させ、熱帯林の減少に繋がることについて理解している。 (ア)	・プリント



# 情報科（情報Ⅰ）学習指導案

日 時 : 令和5年11月9日(木) 5校時  
場 所 : 情報学習室  
対 象 : 2年G組 35名  
授 業 者 : 教諭 野呂 耕一郎  
教 科 書 : 『高等学校 情報Ⅰ』数研出版社

## 1 単元（題材）名

第3編 コンピュータとプログラミング 第2章 プログラミング C プログラミングの方法

## 2 単元（題材）の目標

- (1) アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し、技能を身に付けている。…（知識及び技能）
- (2) 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用し、その過程を評価し改善することができる。…（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 身近な問題を解決するプログラムやシミュレーションの結果をもとに、試行錯誤しながら評価し改善しようとするなどを通して、情報社会に主体的に参画しようとする。…（学びに向かう力、人間性等）

## 3 単元（題材）と生徒

### (1) 単元（題材）

与えられた課題を解決するプログラミングを記述することを多く体験することで、プログラミングの基礎を学び、他の問題解決にも役立てられるようにする。

### (2) 生徒観

理数科の男子25名、女子10名のクラスである。理数教科に興味・関心が強く、学力も高い。また、授業においては多くの生徒が発問に対する反応がみられ、意見交換しながら積極的に取り組む姿が見られる。

### (3) 指導観

これまでにPythonでの簡単なプログラミングを体験しており、プログラミングへの興味・関心がある。簡単な例を学んでさらに情報オリンピックレベルの問題に取り組み、プログラミングの能力を高めていきたい。

## 4 本校の研究課題との関わり

研究課題 生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践

～新たな問いや気づきを引き出す授業を目指して～

- ・プログラミングによる問題解決力を高める ～情報オリンピック1次予選の問題を通して～

## 5 単元（題材）の指導計画

第3編コンピュータとプログラミング 第2章プログラミング（総時数5時間）

- (1) アルゴリズム …1時間
- (2) プログラミング言語とは …1時間
- (3) プログラミングの方法 …3時間（本時3/3）

## 6 単元（題材）の評価規準

	(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	Pythonの基本的なプログラミングを理解し、実行できている。	課題文を理解し、これまでの知識を活用してプログラミングに表現している。	基本のプログラミングを積極的に問題解決に利用しようとしている。

## 7 本時の計画 (本時 5 / 5時間)

### (1) 本時の目標

- Python の基本的なプログラミングである「for ループ」を十分に活用できる (知識及び技能)
- 問題解決に向けたプログラミングを考え、表現することができる (思考力、判断力、表現力)

### (2) 展開

時間	生徒の学習活動	形態	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時の目標を確認する。</li> <li>• 「for ループ」による繰り返し命令についての説明を聞いて確認する。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時の目標を提示する。</li> <li>• 「for ループ」による繰り返し命令についての確認を板書して説明する。</li> </ul>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 例題1 (wwwvvvvvv) のコードを教師と一緒に完成する。</li> <li>• 演習1 (Rightmost) のコードの作成に取り組む。</li> </ul>	個人  グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 例題1 (wwwvvvvvv) を例示しながら生徒たちと一緒にコードを完成する。</li> <li>• 演習1 (Rightmost) のコードの作成に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「for ループ」を理解して使っている。(ア)</li> <li>• さらに改良できないかを考えようとしている。(イ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 観察</li> <li>• 机間指導による観察と提出されたコード</li> <li>• 選択した問題と取り組み状況の観察</li> </ul>
	<p>「“a” をカウントする変数の初期値は0以外の数字を使ってみましょう」と発問しコードが短縮できることを考えさせる。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 例題2 (次の文字) のコードを教師と一緒に完成する。</li> <li>• 演習2 (IOI 文字列) のコードの作成に取り組む。</li> </ul>	個人  グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 例題2 (次の文字) を例示しながら生徒たちと一緒にコードを完成する。</li> <li>• 演習2 (IOI 文字列) のコードの作成に取り組ませる。</li> </ul>		
	<p>「“I” は for ループでは偶数の時ですか？それとも奇数の時ですか？」と補助発問する。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各自の理解度に応じてC問題 (運動会) かB問題 (JOI ソート) のコードの作成に取り組む。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体に理解度を確認し、それぞれの状況を把握し、理解度に応じてC問題かB問題に取り組むよう指示する。</li> </ul>		
<p>演習はグループであるが、全員が個人でコードを作成し、互いにアイデアを出し合って進める。</p>					
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 振り返りフォームに入力する。</li> <li>• 本時のプログラミングのポイントを説明で確認する。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 振り返りフォームに入力することを指示する。</li> <li>• 本時のポイントを確認させ、次時の予定を話す。</li> </ul>		

	よい点	課題	改善の手立て
主発問 ・ 補助発問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入：自分のこととして捉える導入（感情に訴える）自分のことのように捉えることができている</li> <li>・興味関心：生徒とともに授業ができている、聞く力、共感力があって、一つのものに向かっていったというよさ</li> <li>・生徒の変容を評価しようとする部分もとてもよかった</li> <li>・淡々と、落ち着いて、急がずに進められていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標は「～考えよう」でいいのか？→授業のゴールは「最適解」「納得解」でいいのか？</li> <li>・課題2→3の変化について：他の発表を受けての変容はあったのだろうか？どのように確認していくか、生徒がどのように自覚していくのかについては課題が残る</li> <li>・「画期的な視点」は必要か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度本文に戻って、本当に「破りたい」のかをもう一度考える</li> <li>・これは「帰京」の末尾なのか、『土佐日記』の末尾なのか、ということについてももう一度考えさせるのがいいのかもしれない→本当に「正解のない問い」について</li> </ul>
(主体的な探究心・活動的な場面) 新たな問いや気付きを引き出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「正解のない問い」というスタートがよかった→諸刃の剣でもある（モチベーションをもたせる工夫）</li> <li>・時間がしっかりある、待てる「間」がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習の有効性：心情の変化を整理したことが、課題1以降の書いていくことを誘導してしまっているのではないかと（答えはこの辺にあるのでは？という方向づけをしてしまっている）という指摘がある</li> <li>・導入から中盤の部分で説明しすぎな部分があった、プリントを使う場合の進め方について</li> <li>・2班、5班の意見が埋もれた→作品性が増している（悲しい気持ちに引っ張られている中で、その意見をもっと深く掘り下げられれば、深まり、新たな視点が得られるのではないかと）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用：Jambordでもよかったのではないかと</li> <li>・探究の授業であればよいが、拡散と収束をしっかりとやる、メリハリをつけられるといいと思う</li> </ul>

指導  
・  
助  
言

○主体的対話的深い学びについて

互いを認め合う学習集団の育成：互いが信頼できる場で授業ができています。普段からそのような授業づくりをしている証左である。間違いがあっても、それを恐れなくて意見を述べられるという環境はとてもよい。

「作者の心情について考察を深めよう」という目標に対して、スムーズに学習活動が流れて、最後まで続けられたのではないかと。目標を達成できたかは「考察して、考えが深まったか」ということを見る。今日の授業は、単元の目標を達成するためには十分だったと思う。ただ、生徒の知的好奇心を満足させられる内容だったかどうかは、更に授業計画を深めるべきである。

単元名・単元の目標：「身につけたい力」を明確にしてほしい。この単元を学習し終えたときに、生徒がどのように変容しているか、どのような力が身についているかを考えて単元の目標を設定する。その際は、特に「思考力判断力表現力等」を意識してほしい。「知識及び技能」、「学びに向かう力、人間性」ももちろんだが、「思考力判断力表現力等」を重視すべきである。

今回の授業で（２）は限定的なものになってしまったので、授業の広がりがなかったかもしれない。身につけたい力が広がって、学習活動に広がりをもたせるとよい。

○発問について

「作者がこのように書いた理由を考えよう」：生徒の意見を出し合って、「深まる」のは難しいので、深まる「仕掛け」が必要である。生徒に身につけたい力を明確にして、そのために何を考えるのかを考える。感情のみを問うのではなく、文学作品としての表現効果を話し合わせるのはいかがでしょうか。『伊勢物語』であれば、冒頭と最終部分との関連などについて取り上げてほしい。

生徒の発言の中の「作品性を高めるため」「破っていない」という部分を拾って、深い学びに繋げていけたのではないかと。また、「納得解」「最適解」について「納得解」を得られたのか？ということについては、まとめの段階での工夫も必要だった。

「感情」の意見はたくさん出てくるが、授業者の評価基準を明確にして、授業を組み立てることが必要になる。目標の明確化、目標を達成するための学習活動、目標とする力が身についたかをどのように評価するか、それらを考えて授業をすると、もっとよくなると思う。

このように授業を提供してもらって、更によくすべく意見を述べ合うのはよい機会である。今後も続けてほしい。

	よい点	課題	改善の手立て
主発問・補助発問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結論が主発問になっていて、主発問の作り方が大事だと認識させられた。</li> <li>・発問・指示が明確であった。</li> </ul>		
(主体的な探究心・活動的な場面) 新たな問いや気づきを引き出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機材を駆使してメリハリを付けて授業を展開していた。</li> <li>・ワークの時間が足りない面を電子機器を活用することでカバーした。</li> <li>・ワークシートのレイアウトが良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい資料だが、より深い思考に繋がる資料があれば良かった。</li> <li>・問題を解決するためにはどうしたら良いかをもっと取り上げてほしい。</li> <li>・資料を適切に読み取れていなかったり、問いに対する適当な解答が出せていない箇所がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンクエスチョンを入れた方が良い。</li> <li>・まとめの条件を「図」に統一しても良かったのではないか。</li> <li>・イレギュラーな解答を生徒に投げかけて発展させても良かったのではないか。</li> <li>・資料読み取りの視点・解釈が誤っていたら、適宜修正する。</li> </ul>
指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理総合という科目は、主題的、テーマ学習が中心になっている。</li> <li>・持続可能な社会づくりに必須になる地球規模の諸課題に対して、課題解決能力を身につけていくこと、地理的な見方・考え方、主体的で対話的な深い学びが地理総合の二本柱になっている。今日の授業もそういうことを念頭に置いた授業になっていた。</li> <li>・生徒の持ち得る知識量に基づいた授業であった。</li> <li>・暗記中心の社会科教育から脱却することがスタートだが、ある程度の知識がなければグループ学習は繋がっていかない。基本的な知識があるからこそ50分で構成できる授業内容であった。</li> <li>・最終的に答えが一つになっていく資料であった。秋高生にとっては易しめの資料であった。</li> <li>・50分内で授業を構成する上では教え過ぎないで内容を絞っていくことも必要である。</li> <li>・多面的・多角的に考察すればするほど解決は難しいが、今日の授業で得られた合意形成があれば、次時に繋がったり、2年次の地理探究や歴史や公共等他の教科、科目にも繋げて、問いに対する解答を深めていけるようになれば今日の授業の価値があがると思う。</li> <li>・授業者の持って行きたい答えを伝えていた。解答の方向性を出さないで持って行く方が良いのではないか。</li> <li>・ホワイトボードにはキーワードだけの方が見やすかったのではないか。</li> </ul>		

## ◎記録

### I. 開会

### II. 授業者、指導・助言者の紹介

### III. ワークショップ

#### ①説明

#### ②授業の振り返り【授業者：菊地達八先生】

- ・最後の振り返りの時間が不足してしまった。完全に書き切れていない生徒がいた。
- ・今回の研究テーマが“生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践”であった。学習指導要領にある本単元の思考力・判断力・表現力等の内容をもとに授業を設定した。熱帯林の減少について、熱帯の国々と新興国や先進国との結びつきに着目して、熱帯林の減少と農園開発の関連を考察させるという主題を設定し、その要因について生産、加工・販売、消費の多面的な視点で考察させるという授業を構成した。新たな問いや気づきを引き出す授業という補助テーマがあるので、三者の多面的な視点での考察の後に、三つの立場はどのように関係し合って熱帯林の減少に繋がっているのだろうか、という問いをつくることによって全体を俯瞰させたいと思った。熱帯林減少の問題構造に、日本に住む私たちも関わっていること、また、各々に経済的利益があるからこそ問題解決が簡単にはいかないこと、熱帯林減少は熱帯地域だけの問題ではない、ということを実感的には気付かせたかった。最後に授業一時間の主発問と補助発問のテーマのように単元全体を貫く問いを設定し、1時間1時間の各授業の主発問を解決していくと単元全体を貫く問いを解決できるようにつくってみた。導入部分を時間が足りないで前の時間に持ってきた。すぐ展開には入れるようにした。実際にやってみて、生徒の意見の集約の難しさが課題であった。生徒の言ったことに答えたり、それを板書するのが難しかった。生徒側の具体的なイメージの齟齬が今回のミスを招いた。それから時間が足りなかったと反省している。皆さんからご意見をいただければと思う。

#### ③グループワーク

#### ④全体共有

##### 1班：武田隼人先生(西仙北高等学校)

- ・菊地先生と生徒との関わりが良い。テンポ良く雰囲気が良い。様々な機材を駆使しメリハリを付けて授業が展開されていた。
- ・とてもわかりやすい資料だけれども生徒にとっては物足りなかったか。より深い思考に繋がる資料がなかったか。オープクエスチョンにした方が良かったのでは？秋高生ならできるのでは？

##### 2班：齊藤真一先生

- ・人柄が見える授業。
- ・主発問が良い意味ですんなり入ってこない。主発問の作り方が大事だと認識させられた。
- ・似たようなまとめを比較してもよかったのではないかと？その中で何が違うか、何が共通点かを明確にすればわかりやすいのではないかと。まとめの条件を「図」に統一しても良かったのでは？

### 3班：佐々木裕之先生

- ・資料の流れに沿って一本線になっていて答えが決まっている。なぜ？が少なかった。
- ・熱帯林の減少を解決するためにはどうしたら良いかの部分をもっと取り上げてほしい。
- ・ワークの時間配分が足りない面を、電子機器を活用することでカバーできた。ジャムボードの使用も有りでは？
- ・まとめのホワイトボードを座席後方の生徒に見やすくできれば良かった。実物投影機を使用すれば解決できる。
- ・イレギュラーな解答をすぐに修正したが、生徒に投げかけて発展させても良かったと思う。(脱線も良くないが)
- ・ワークシートのレイアウトが良かった。発問・指示が明確だった。授業に対する基本的スキルが高い。

### 4班：秋田法俊先生

- ・前時との繋がりが適切であった。
- ・資料の読み取りの視点・解釈が違っていた部分が見過ごされていたので適宜修正すれば良かった。
- ・資料の読み取りに関するスキルを身に付け、探究の分野で複合的な資料の見方であったり、論述問題の対応としてこの資料で何が読み取れて、そこからどのような結論を出すのかについて、生徒の解答を聞いているとうまく整合がとれていない。問いに対する適当な解答が出せていない所がある。

## IV. 指導・助言 佐藤央氏(秋田西高等学校 教育専門監)

- ・地理総合という科目は、主題的、テーマ学習が中心になっている。
- ・持続可能な社会づくりに必須になる地球規模の諸課題に対して、課題解決能力を身につけていくこと、地理的な見方・考え方、主体的で対話的な深い学びが地理総合の二本柱になっている。今日の授業もそういったことを念頭に置いた授業になっていた。
- ・生徒の持ち得る知識量に基づいた授業であった。
- ・暗記中心の社会科教育から脱却することがスタートだが、ある程度の知識がなければグループ学習には繋がっていない。基本的な知識があるからこそ50分で構成できる授業内容であった。
- ・最終的に答えが一つになっていく資料であった。秋高生にとっては易しめの資料であった。
- ・アブラヤシは面白いテーマである。
- ・50分内で授業を構成する上では教え過ぎないで内容を絞っていくことも必要である。
- ・多面的・多角的に考察すればするほど解決は難しいが、今日の授業で得られた合意形成があれば、次時に繋がったり、2年次の地理探究や歴史や公共等他の教科、科目にも繋げて、問いに対する解答を深めていけるようになれば今日の授業の価値があがると思う。
- ・授業者の持って行きたい答えを伝えていた。解答の方向性を出さないで持って行く方が良いのではないか。
- ・ホワイトボードにはキーワードだけの方が見やすかったのではないか。

	よい点	課題	改善の手立て
主発問・補助発問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材選びが良かった</li> <li>・思考を促す発問ができていた。</li> <li>・方針を考えさせる発問でよかった。多様な考え方が発生していた。</li> <li>・主発問に対して生徒からの良い反応があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への指示が行き届いていないのではないか（ざわざわとリアクションがある中で進めたことから）</li> <li>・達成感が得られるようなゴールが必要ではないか</li> <li>・発生した多様な考え方を全体に共有する場面があってもよかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いてほしい発問はきちんと全員に届くような工夫が必要。（重要なこと、発問の際には手を止めさせてしっかり伝えるなど）</li> <li>・方針を全体に発表する場面の設定</li> </ul>
（主体的な探究心・活動的な場面） 新たな問いや気付きを引き出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークが活発。生徒同士で問を発したりして学び合っていた。</li> <li>・わからないときに適度に他の人のところへいっていた。他者へ依存せずに活動できてよかった。</li> <li>・一人一台端末があることに驚いた。とても効果的で良いと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的な理解度はいいかもしれないが、段階段階の理解度には差があったように思う。</li> <li>・高度な内容であるが故にスキルに差がありすぎるときに完全に他者依存になりそう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロー図をかいたりするなどして理解を深められるのではないかな。</li> <li>・できる生徒のプログラミングをちょっと見に行かせるなど共有の場面があってもいい。</li> <li>・グループを設定しているのでできている生徒からのコメントなどもあっていい。</li> </ul>



指導  
・  
助  
言

【パソコン室の活用】  
同じような内容を電子黒板でもできると思ったが、個別に生徒に情報を正確に届けるという意味ではありではないかと感じた。

【教材選択】  
生徒の実態に合わせた題材選びであったと思う。授業以外の場面でも予習・復習ができるので発展的に学びたい生徒へのケア（発展課題）もできるのではないか。

【グループワーク】  
とても情報交換が活発。根拠を持って意見交換ができています。新たな問いを見出す生徒もいてとてもよかった。もちろん全員がそうであったわけではないので今後の課題である。

【生徒の気づき、深い学び】  
「教えすぎない授業」で生徒の気づきを引き出せていた。生徒が自ら試行錯誤しながら課題へ立ち向かう姿勢を引き出せていた。

【協議会について】  
5つのグループに分かれて活発に意見共有が行われていてよかった。  
Jamboardの活用で方向性やグルーピングが活発に行われていた。  
この形式で協議会を行うと良い点に偏りがちであるが、全体の付箋のバランスが良かった。優れた点だけでなく課題や改善の手立てが多くてとてもよかった。バグを見つけてそれを治すような授業はどうだろうか？など様々な意見が出ていて建設的な協議会になったと思う。

## 令和5年度秋田高等学後期授業研究会振り返り

協議会について	協議会の評価理由	あなた自身の授業改善課題	感想や、考えの変容など	取り組んで見たいこと
学びがあった	自分が気付かないポイントなど知ることができた。また、他校の専門の先生のお話を聞くことができた。	生徒のやる気を引き出し1時間にまとめる工夫。	うまく教えれば生徒はどんどん興味をもって自走できる	ICTの活用
とても学びがあった	指導主事の先生の指導助言に学ぶ点が多かった。	一つ一つの授業において、生徒に身に付けさせたいことを明確にし、実践する。	明確な授業の目標を提示する。	生徒が苦しさの中にも、満足感を抱く授業の実践。
学びがあった	自分の専門と異なる教科であったが、国語特有の授業のまとめ方を学べた。	間違いを言える環境づくり	展開の発散と収束という考え方、思考判断表現の観点から身に付けたい力を明確にすること。	身に付けたい力を明確に生徒に提示していきたい。
学びがあった		本時の目標の明確化・考えさせる時間をしっかりと与える	「土佐日記」：教科書の一部として見るか、文学作品として見るか、で捉え方や深まりが違って面白い。	教科書をどう料理し、提供し、ゴールに導いていくか。一番時間をかけて考えたいのに、日々の諸業務により、そうできていない現実がある。がんばりたい。
学びがあった	他教科の授業を参観したことで、新たな視点で自身の授業構成を考えるきっかけを得ることができたと感じる。	従来の授業構成とは異なる、探究の過程を意識した授業改善、視点の転換。	研究授業に意欲的に取り組む姿勢から、本校の生徒の可能性の大きさを再認識した。	探究の過程を意識した授業改善、教えすぎない授業
とても学びがあった	有意義な言語活動に向けた資料の提示の仕方や進め方、まとめ方など、教科を越えて参考になることが多かった。	生徒の思考を揺さぶる発問の在り方	科目にもよるが、「題材の裏側・向こう側」を意識して教材研究を行い、題材を通して得られた知識や見方をまとめたり共有したりする機会の確保に、引き続き取り組んでいきたい。	発問の工夫
とても学びがあった	他教科の授業展開について自分の教科との共通性や差違を学ぶことができ、自分の授業に生かせる点が数多くあったため。	生徒の授業内での変容を見取るような仕掛けや授業展開、学んだことの言語化のプロセスを取り入れること。	同系統の教科だったからか、授業の観点到共通するところが多いということが分かった。	学んだことに対する自分の考えを述べることで終わってしまったので、他者との意見交換をして自分の考えをどう変化させたかまで言語化させ、深めさせたいと思います。
学びがあった	新教育課程となり情報の授業内容に興味がありました。特に、プログラミングの教え方、学びかたを参考にしたいと思いました。	本時の授業の流れ→グループワークでの発言の共有→理解度に応じた問題の提示→振り返りなどの授業の展開について考えさせられました。	新教育課程での新たな情報の内容に触れることができ、楽しかったです。自分の大学生時代を思い出しながら、高校生にどのように指導すべきか悩むところですが、他教科ですが自分の授業に還元できればと思います。	数学の計算問題を解く、プログラミングを作成しても良いかもしれません。また、発言したり考えを共有することの大切さを再認識しました。問題のレベルや提示の仕方の吟味も大事なことであったと感じました。
とても学びがあった	大学の先生方の意見や他の班のまとめを聴くことで学びが多かった。	自分の科目と情報教育を関連付け、できることがないか考えてみたい。	情報Iという科目で学ぶ内容に触れることができ、よい機会となった。今後、社会に出る人達はこのような学習を経験していると考え、社会の大きな変化に繋がっていくと感じる。自分自身、プログラミングなどについて学びを深めていきたいと感じました。	
とても学びがあった	多様な教科の先生方から、授業づくりに有用な視点を学ぶことができました。	秋高生の潜在能力を引き出すために主発問の深さがどうあるべきか、課題として取り組んでいきたい。	指導と評価の一体化や評価の具体例について、情報収集して実践に生かせるようにしたい。	1時間ごとの主発問・補助発問と生徒の反応を記録して、改善を図りたい。
とても学びがあった	始めて新課程の情報の授業を観て衝撃を受けた。	生徒の理解度を図る手立てやまとめの改善	評価の方法や題材の設定について個々の授業でしっかり考え、改善を図り続けたい。野呂先生大変お疲れ様でした。本当にありがとうございました。	生徒の現状に合った問題設定か、なぜその問題なのか、ということは常に考えていきたい。
学びがあった	新しいアプローチの仕方、スキル、考え方に接することができた。	主発問の設定、プリント等授業のまとめ方	Jamboardありきだったので、操作の仕方に時間を取られた。	生徒主体の双方向の授業
学びがあった	大学の先生方の意見を聞けたから	題材選び、興味関心を高める工夫		効果的な主発問・補助発問の伝え方
学びがあった	生徒がグループになり集中して取り組んでいた。情報処理の指導の仕方が参考になった。	プログラミングの指導の仕方、他の先生方の意見が参考になった。	他校の先生方への参加呼びかけは継続した方がよい。	プログラミング知識の習得。
学びがあった	協議会参加者の意見が様々であり、参考になった。	生徒の何気ない「ささやき」や「つぶやき」に耳を傾け、「気づき」や「発見」に結び付けたい。	生徒の意欲的に授業に取り組む姿勢に感動した。もう少し演習の時間を延ばして、成功体験を味わせたかった。	観察に力を注ぎたい。
とても学びがあった	協議会実施にあたり、企画研修部や教科の先生方など多くの方々の協力があってきたため。また、研究目的の授業実践もなかなか行いうる機会が少ないので、とてもいいトレーニングになったため。さらに、校内外の先生方から有益な助言を頂けたため、実りのある協議会となったため。	生徒の意見の集約や、問い返しの技術。本時の学習内容を評価でき、幅広い考えを生むような最後の発問の工夫。発問や問題文の要求に正確に答えられるようにする指導。秋田高校の生徒レベルでの授業の在り方。	普段、研究目的の授業実践もなかなか行いうる機会が少ないので、とてもいいトレーニングになりました。特に、準備段階にあたり、教科内の先生方の協力や多くの先生方からの応援があり、多くの面で支えられました。ありがとうございました。	生徒の意見の集約や、問い返しの技術を向上させる。目的が明確で幅広い考えを生む発問のアイディアを増やす。発問や問題文の要求に正確に答えられるようにする指導の方法論を考える。
学びがあった	情報のプログラミングという難しい題材でしたが、生徒の活動の場面や発問等の指示について勉強になりました。	生徒同士の活動の場面の設定	生徒の主体性を重んじる授業の方法について再考できた。	
学びがあった	一つの授業を丁寧に振り返る機会であったから。	生徒をよく観察すること。	発表者のがんばりに刺激を受けた。	今一度しっかりと準備をすること。その上で目の前の生徒に柔軟に対応したい。
学びがあった	自分と違う視点の評価が聞けたこと。	グループ学習の効果的なあり方	他校の先生との意見交流は新鮮であった。	グループ学習
学びがあった				

# 『宋史』列伝における60代の生き方

国語科 教諭 坂本 公正

## はじめに

『宋史』列伝の訓読をし2023年で5年目となった。これまで扱った人物は126人となり、このシリーズは4編目となる。

また最近の教育の現場で話題になったことの一つに公務員の定年が65歳までに段階的に延長されたことを承知の方も多いであろう。以前と違って教員のライフワークはひたすら定年まで走りきるといよりも、息の長いものにならざるを得ない。早稲田大学教授の久保田氏（参考文献1）によると「60歳以上の教員にどのように仕事をしてもらうかは大きな課題」とされている。ただし、まだその具体的な制度設計は見えていないのが実情のようである。そこで今回は今年度扱った35人のうち、60代でも活動した人物の生き方を探ってみたい。

『宋史』についてや北宋以前の王朝のことなどは文末の注を参考にさせていただきたい。なお本稿の「本文」とはすべて『宋史』を指すことを断っておく。

## 60代の生き方 その1 楊嗣 (933~1014) 81歳

まず始めは楊嗣を取り上げてみたい。武人であるが67歳になっても戦に出陣し、敵を斬首すること二千人、戦利品も得て、団練使（従五位相当）の位を授かった。その後、楊嗣は次のような発言をする。

◆「嘗与延昭同官、驟居其上、不可、願守旧官」。上嘉其讓乃遷延昭官。

■「嘗て延昭と官を同じくすれども、驟かに其の上に居るは、不可なり、願はくは旧官を守らん。」と。上其の讓を嘉とし、乃ち延昭の官を遷す。

◇「以前、延昭と官職が同位であったが、今回急に自分がその上にいるのはよろしくない。どうか元の位に留めてほしい。」と。皇帝はその讓る心をよしとしてそこで延昭の官職を遷した。

文中の延昭は楊延昭と言い、当時の人々は楊嗣と合わせて「二楊」と呼んだ。楊嗣のように高齢でも第一線で活躍する人物が当時もいたのだろう。このこと自体は素晴らしいのだが、一昔前の日本人のがむしゃらさと同じものを感じてしまう。そこで私は思う、60代に求められる資質は若者と同じ次元のものだけなのだろうか。そこで次の事例に移りたい。

## 60代の生き方 その2 皇甫繼明 (933~996) 63歳

二人目の皇甫繼明は冀州の出身。身長が七尺あり、筋力の強さで地元では有名であった。63歳になった彼は靈州で田氏の援軍を要請されたが、生憎病を得ていた。

◆「我疾少間。」遂嬰鑠被甲上馬強行至清遠軍、卒、年六十三、詔贈彰武軍節度。

■「私の疾少しく間たり。」と。遂に嬰鑠として甲を被り馬に乗り強行して清遠の軍に至るも、卒す、年六十三なり、詔せられて彰武軍節度を贈らる。

◇「私の病気はまもなく癒えるであろう」。とうとう老齡ながらも丈夫な様子で甲を被り、馬にまたがり

無理に清遠に到着するも、その地で死んだ。年齢は63歳であった。詔が下されて彰武軍節度の位が贈られた。

武人としての見事な最期と言えようが、命を落とすのは気の毒でならない。加齢とともに病がちになるのはやむを得ないことである。その上で60代にふさわしい日々の過ごし方はないものだろうか。

### 60代の生き方 その3 郭瓊 (892~964) 72歳

三人目の郭瓊は平州の出身で若い時から勇敢な人物として知られた。以下は950年代の話である。

◆民饑、瓊以己俸賑之。人懷其惠、相率詣関頌徳政、詔許立碑。

■民饑う、瓊己の俸を以て之に賑ふ。人其の恵を懐ひ、相率みて関に詣り徳政を頌ふ、詔せられて碑を立つるを許さしむ。

◇人々に飢饉が襲った。郭瓊は自分の給料を人々にふるまった。人々はその恩恵に感謝し、連れ立って役所に向かい、徳のあるすぐれた治世を讃えた。詔が出されて頌徳碑を建てることを許可してもらった。

この郭瓊は後の文章でも至るところで恵政ありと伝えられている。さらに「武臣之賢者」とまで評価されている。対象にただ邁進するのではなく他者への思いを行動で示し、老若いずれにも感化させていくこの人物に一つの理想型を見る。

### 60代の生き方 その4 崔翰 (929~992) 63歳

四人目は崔翰である。京兆の出身で容姿に優れ、北宋の趙匡胤の部下であった。亡くなる992年、病を得て京師に滞在していた。その際、皇帝に次のように発言する。

◆「臣既以身許国、不願死於家、得足以馬革裹屍矣。」

■臣既に身を以て国を許され、家に死するを願はず、馬革をもて屍を裹むを以て足るを得んや。」と。

◇「私はすでに退官を許されているが、自邸で死を迎えるのを望まず、戦場で討ち死にするならば本望だ。」と。

「馬革裹屍」は「馬の革で屍をつつむ」の意味で「戦場で討ち死にすること」。皇帝は崔翰の言葉を「壮（勇ましく気力があふれている）」と見なし、再び任地に向かわせようとするがまもなく亡くなったとされる。武人としての生き方として先述の皇甫継明に通ずる面がある。精神力の強靱さが読む者に迫ってくるようだ。ただしここでこの人物を取り上げたのは別の意図があつてのことでもある。崔翰は熱心な仏教信者であり、死後、家に余財はなく、生前も自分の収入を寺院に寄進したりしており、本文には「酷信す」とまで記されている。『宋史』では仏教信仰に対して、よく言えば客観的、人物によっては批判的に描かれていることが度々ある。いずれにせよ、晩年を迎えて宗教を重視することは事の是非をおいても一つの老齡期の特徴だと言える。信心があるからこそ一途な生き方を推進していくことが可能なのかもしれない。

### 60代の生き方 その5 劉重進 (898~968) 70歳

五人目の劉重進は幽州の出身。20代の頃、敵国である契丹語を習得し、それによって重宝された。生前、前出の趙匡胤が彼と対話した記録が残っている。

◆「観重進應對不逮常人、前朝以為将帥、何足重邪？」

■「重進の應對を觀て常人に逮ばず、前朝以て将帥と為すも、何ぞ重きに足らんや？」と。

◇「重進と対面していると普通の人間以下である。前の王朝（後周などを指すか）は将帥に任命していたようだがどうして重く用いていたのかさっぱり分からない・・・」。

当人が聞いたら耳の痛い話であろうが、現代的に言うならばアップデートできなかった人間の末路とでも表

現できょうか。ただ万能な人間など存在しないことを考えると重進に関してはもっと早い段階で自らの可能性を広げるべきだったかもしれない。

### 60代の生き方 その6 <sup>べいしん</sup>米信 (927~994) 67歳

六人目の米信は元来、異民族の出であつたらしい。若い頃は弓矢を得意としていた。彼の評価は率直に言ってよくない。本文を引用してみよう。

◆信不知書、所為多暴横、上命何承矩為之副、以決州事。及承矩領護屯田、信遂專恣不法、軍人宴犒甚薄、嘗私市絹附上計吏、称官物以免関征、上廉知之。

■ 信書を知らず、為す所暴横多し、上何承矩に命じて之を副と為し、以て州事に決す。承矩の屯田を領護するに及び、信遂に専ら恣にかしようきよにほしいままし法らず、軍人の宴犒は甚だ薄し、嘗て私かに絹附を市し吏に上計し、官物と称し以て関を免じ征く、上之を廉知す。

◇米信は学問を理解せず、することに横暴さが目立ち、皇帝は何承矩に命令して米信の副官とし、州の統治をさせた。承矩が土地を管理した時、米信は自分勝手であり法を守らず、軍人をねぎらう宴もろくにしなかつた。以前、ひそかに絹織物を売買し売上を官吏に計上し、国の物品だと偽った。皇帝はこれについてこと細かに調査した。

60代になって不正を犯してしまう人物。米信の場合、それらが突如芽生えたものではなくそれ以前からの行動のなれの果てだったかもしれない。誰か周囲に正論や正しい行動に導く存在はいなかったのだろうか。悔やまれる事例である。

### 60代の生き方 その7 <sup>おうじんこう</sup>王仁鎬 (892~961) 69歳

七人目の王仁鎬は邢州の出身。66歳の時、統治していた人民より錦袍を贈られる。以下本文を引用してみる。

◆郡民扶老携幼、迎於境上、有献錦袍者四、仁鎬皆重衣之、厚酬以金帛。

■ 郡民老を扶け幼を携へ、境上に迎へ、錦袍を献ずる者四有り、仁鎬皆重ねて之をき衣て、厚く酬ずるに金帛を以てす。

◇郡の人々は老人を介抱し、幼児の手を取りながら境界まで見送り、錦袍を献上する者が四人も出たが、仁鎬はその錦の上着をすべて重ねて着て、彼らに金帛を与えた。

また仁鎬は他日、父祖の墓参りで激しく涙を流し、当時の人々は孔子の弟子の子路の故事を引き合いに出し讃えたという。情に厚く、人民から慕われる仁鎬。特に四枚も重ね着する好々爺たる姿が目の前に浮かぶようである。彼の治政の具体は言及されていないが想像するによく人民の話を聴き、それらを形にして善処したものと思われる。これをもってひとまずまとめに入りたい。

#### まとめ

計七名の60代を追ってみた。戦で功績を残した楊嗣。見事な死を遂げた皇甫継明。賢者と称えられた郭瓊。ただ好ましい面ばかりでないことは後半に述べた。しかしながらここに上げた人物はそれぞれに積み上げた人生を全うし駆け抜けたと言えよう。

前述した久保田氏はベテラン教員に望むことに「傾聴力」を挙げており、それが持続可能な現場を考える上で必要なこととしている。してみれば時代や年齢を問わず最も大切なものは他者の言動や態度に関心を持ち、耳を傾け続けることだと言えるのかもしれない。ただしそれはおそらく歳を重ねるとそう簡単なものではない。繰り返しになるが、完璧な人間などいないのだからその時代の置かれた状況と他者との関係の中で、

自己をどう活かしていくか、それを探っていくことになるだろう。

注1 『宋史』とは中国二十四史の一つで元王朝の1345年に完成。496巻うち列伝は255巻を占めている。

注2 唐滅亡から北宋成立までの変遷を示すと次のようになる。

唐滅亡（907）→後梁（907～923）→後唐（923～936）→後晋（936～947）→後漢（947～950）→  
後周（950～960）→北宋（960～1127）

#### 参考文献一覧

『宋史』維基文庫 自由的図書館

『月刊高校教育』2024年1月号 巻頭インタビュー「人生100年時代にどんな教育像を描く？」久保田治助氏は早稲田大学文学学術院教授